

イワシ類成魚の分布生態の研究

水産資源調査・評価推進委託事業

(予算区分 受託 研究期間 1995 年度～)

担当：水産・海洋技術研究所資源海洋科 鈴木聡志

【研究の背景とねらい】

- 2020 年 12 月に施行された新漁業法において、我が国周辺における水産資源の保存及び管理を適切に行うため、最大持続生産量 (MSY) に基づく資源評価を行うことが求められています。
- イワシ類についても、関係機関が連携して漁獲統計や魚体組成等、必要なデータを収集し、資源評価、漁況予測を行っています。

【これまでに得られた成果】

(2022 年度の状況)

- マイワシ太平洋系群の資源量は 1980 年代には 1,000 万トン以上の高水準でしたが、1980 年代後半に入ると減少し、2003 年以降は 10 万トン前後の低水準で推移しました。その後、2010 年以降は増加傾向にあり、2021 年の資源量は 443 万トンと推定されました。
- 2010 年以降、県内主要 21 港におけるマイワシの水揚量はマイワシ資源量の増加に伴って増加傾向にあり、2022 年は 10,909 トン (前年 7,040 トン、過去 5 年平均 7,700 トン) でした (図 1)。
- カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2002 年までは増加傾向でしたが、2002 年の 291 万トンをピークに、その後、減少しました。2021 年の資源量は 25 万トンと推定されました。
- 県内主要 21 港におけるカタクチイワシの水揚量は、変動はあるものの資源量の減少に伴って減少傾向にあり、2022 年は 89 トン (前年 300 トン、過去 5 年平均 373 トン) でした (図 2)。



写真 マイワシ(上)と
カタクチイワシ(下)

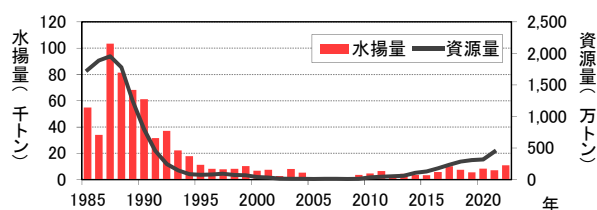


図 1 県内マイワシ水揚量と
マイワシ太平洋系群の資源量の推移

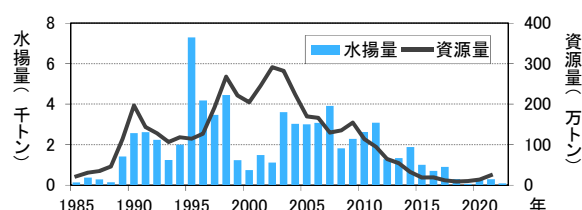


図 2 県内カタクチイワシ水揚量と
カタクチイワシ太平洋系群の資源量の推移

【期待される成果】

- 水揚量、体長組成、成熟状況等の生物情報を基に静岡県周辺海域における来遊動向や資源状態を把握することで、より精度の高い資源評価や漁況予測を行うことが可能となります。

【今後の計画】

- 県内と全国の漁況の関係について関係機関と情報共有、検討し、静岡県周辺海域におけるイワシ類の来遊動向を把握していきます。

(作成 2023 年 4 月)